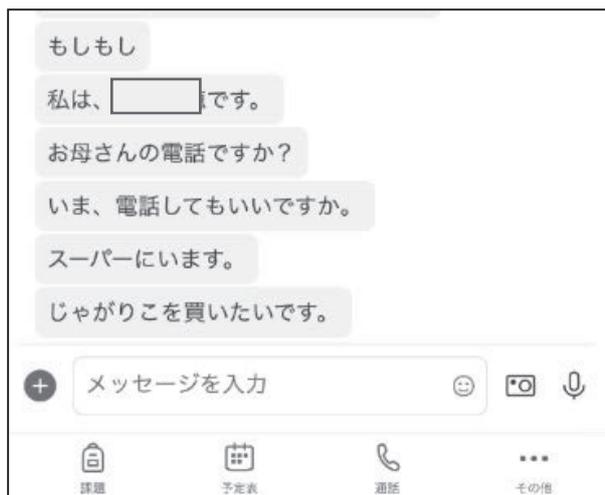


〔表－25 単元の個人目標の評価〕

	目標	評価	評価の根拠となる様子
E	①電話対応で、自分の状況が相手にわかるように適切に話すことができる。(小学部 3段階 以下小3)	○	ワークシートを一人で読みながら話すことができ、言い間違えたときも自分で気付いて言い直すことができた。
F	①電話対応で、自分の状況が相手にわかるようにワークシートを活用して話すことができる。(小3)	○	ワークシートを一人で見ながらしっかりと携帯電話を耳元につけて、ゆっくりはっきり話そうとしていた。
G	①電話対応で、自分の状況が相手にわかるようにワークシートを活用して話すことができる。(小3)	○	時々ワークシートを自分で指さして確認し、順番どおり読むことにも注意しながら発表するができた。
H	①決まった相手との電話を想定し、決まった言い方を使うことができる。(小3)	○	タブレット端末から音が出ていることにも少しずつ慣れ、笑顔で電話をすることができるようになった。
I	①自分の状況が相手にわかるように、順序を考えて伝えることができる。(中1)	○	変換の候補に出てきたものから適切な言葉を選んだり、知っている漢字を変換したりしていて、より相手に伝わりやすい方法で表現することができた。



〔図－52 漢字変換を活用したチャットの文章〕



〔図－53 自分から教材を取りに行く様子〕

中学部の授業研究の成果と課題は以下のようにまとめられた〔表－26〕。

〔表－26 中学部授業研究の成果と課題〕

	成果	課題
国語の資質・能力の育成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この取り組みによって、「目の前にいない人」にも、話したり文字を打ったりして、伝えることができることを知ることができた。</li> <li>・電話の受け答えの決まった言い方を知り、ワークシートを使って話すことができた。</li> <li>・電話の受け答えで相手が聞き取れるよう、大きな声でゆっくり話したり、相手を読みやすいよう知っている漢字を使って文字を打ったりするなどの工夫ができた。</li> <li>・電話をすることへの抵抗を少なくし、電話で適切に話す力の育成には、定型文で練習を積み重ねることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、相手の質問内容を聞き取る力や、質問に対して、適切な言葉を選択して回答する力の育成が必要である。</li> <li>・「自分から話す力」を育成するには、自分の置かれている状況が分かったり、自分の気持ちに気付いて、それを自ら伝えたりする学習に取り組まなければならない。</li> <li>・言葉を選んだり話す順番を考えたりするなど、相手に分かりやすく伝えるための学習には、今後も引き続き取り組む必要がある。</li> </ul>
電話を使用することについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この単元が、生徒が実生活で電話を使うことのきっかけになった。</li> <li>・生徒に、他者と会話をする道具（ツール）として電話の存在を知らせることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的に他の教科や合わせた指導にも関連付け、例えば、就業体験や校外学習時に報告するなど、電話を使う機会を増やしていきたい。</li> <li>・実生活での使用を目指すならば、使う経験を積む必要があるため、家庭でも使用する機会を積極的にもつよう伝え、般化につなげていきたい。</li> </ul>

#### ウ 高等部の取組

高等部の国語では、生徒の実態に合わせて縦割りで3つのグループ（Aグループ、Bグループ、Cグループ）を編成している。このうち、本学部別授業研究の対象となるCグループの6名は、身近な教師や友だちと、興味のもてる活動や話題を通してやりとりを



〔表－27 生徒Jの取り組みたい国語科の指導内容〕

【生徒 J】

- ・二語から三語で構成する文を題材に，主語や助詞が変わることで表す状況が変化することを理解すること。
- ・読み聞かせに親しんだり，文字を拾い読みしたりして，いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。
- ・身近な人の話に慣れ，経験したことなどについて頭の中にイメージしたことと知っている言葉とを照合したり当てはめたりして，その意味や言葉から連想されるイメージを思い浮かべること。
- ・教師と一緒に，よく親しんでいる絵本の絵や題名などを見て，どんな登場人物が出てくるかを考えたり，場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で表そうとしたりすること。
- ・教師と一緒に絵本などを見て，時間の経過などの大体を捉えること。

〔表－28 生徒Kの取り組みたい国語科の指導内容〕

【生徒 K】

- ・言葉のもつ音やリズムに触れたり，言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。
- ・実際の事物などを見たり触ったりして実感し，言葉と事物とを結び付けたり，生活経験からいろいろなことを想起し，それらを言葉と結び付けて表現したりしていくこと。
- ・昔話やわらべ歌，言葉遊びなどについて，読み聞かせを聞くなどして言葉の響きやリズムを感じたり，動作化したりして親しむこと。
- ・読み聞かせに注目し，いろいろな絵本などに興味をもつこと。
- ・教師と一緒に，絵本のほか，紙芝居を読んだり，写真や絵，映像などを見たりすることで，身近にある事物や事柄，生き物などが表現されていることに気付き，注目すること。

年間指導計画に沿って単元を計画するにあたっては，生徒一人ひとりの取り組みたい国語科の指導内容を踏まえて検討した。当初，「絵本を楽しもう」の単元は4時間を予定していた。しかし，Cグループの学習においては，残された少ない学校生活の中で，新規の知識・技能を身に付けさせようとするよりも，コミュニケーションの基盤を意識しながら，生徒一人ひとりが言葉とどのように向き合うのか，また，言葉を通してどのように人や物と通じ合う経験を増やしていくか，というところに重点を

置いて計画した方が望ましいのではないかと考え、絵本とじっくりと向き合って味わう時間を確保するために、1冊に4時間かけたまとまりを一次とし、4冊の絵本を取り扱う16時間の単元とすることにした。単元の中では、生徒が興味のある絵本を取り扱い、その内容を想像・思考して書いたり、伝えたりし、意欲的に気づきや思いを教師と共有しながら物語の世界を楽しむ学習にしたいと考えた〔図-55〕。

### 高等部国語Cグループ 国語科学習指導案（抜粋）

#### 1. 単元名「絵本を楽しもう」

#### 2. 単元の目標

絵本の読み聞かせを聞き、それに応じた課題に取り組みながら、言葉や絵本への興味・関心を高める。

#### 3. 単元の計画（全16時間）

次	時	日時	学習活動	指導内容
1	1	11/4	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○絵とそれに合う文を結びつける。 ○お店屋さんのやりとりをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせに注目し、絵本などに興味をもつこと。</li> <li>・家族や友達など身近な人から話し掛けられた状況を受け止め、関心をもって相手を見たり、音声で模倣したり、簡単な言葉で表現したりすること。</li> <li>・場面の状況や絵本の挿絵などを手掛かりに、内容をおおまかに把握し、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な言葉な</li> </ul>
	2	11/11	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○示された主語に合うように、語を並び替える。 ○絵とそれに合う文を結びつける。 ○お店屋さんのやりとりをする。	
	3	11/19	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○絵に合う文になるよう語を並び替える。 ○示された主語に合うように、語を並び替える。 ○お店屋さんのやりとりをする。	

4	11/25	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○選択肢から必要な語を選んで、絵に合う文を作る。 ○絵に合う文になるように、語を並び替える。 ○お店屋さんのやりとりをする。	どで表現したりすること。 ・簡単な指示や説明を聞き、その指示が分かること。 ・身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。
---	-------	---	---

#### 4. 単元の個人目標

個人目標	
J	① 主語と述語の関係に気付く、分かる。(小2段階) ② 絵に合う文を選んだり、選択肢の語を並び替えたりして表現することができる。(小2段階) ③ 絵本の内容について、自分の思いをもち、教師に伝えようとする。(小2段階)
K	① 教師の読み聞かせを、視線を向けて聞く。(小1段階) ② 登場する動物や物に注目したり気付いたりできる。(小1段階) ③ 教師や友だちからの言葉かけに反応し、答えようとする。(小1段階)
L	① 絵本に親しみ、興味をもつことができる。(小2段階) ② 絵本の内容についての質問に、選択肢から選んで、答えることができる。(小2段階) ③ 絵に合う文を選んだり、語を並び替えて絵を文章で表現したりすることができる。(小2段階)
M	① 教師の読み聞かせを聞くことができる。(小1段階) ② 絵本の内容についての質問に、選択肢から選んで、答えることができる。(小1段階) ③ 絵に合う文を選んだり、語を並び替えて絵を文章で表現したりすることができる。(小1段階)
N	① 教師の読み聞かせを聞くことができる。(小1段階) ② 登場する動物や物に注目したり気付いたりできる。(小1段階) ③ 教師や友だちからの言葉かけに反応し、答えようとする。(小1段階)
O	① 主語と述語の関係に気付く、分かる。(小2段階) ② 絵に合う文を選んだり、選択肢の語を並び替えたりして表現することができる。(小2段階) ③ 絵本の内容について、自分の思いをもち、教師に伝えようとする。(小2段階)

〔図－55 「絵本を楽しもう」指導案（抜粋）〕

授業の展開は、〔表－29〕のとおりである。

前半に「絵本の読み聞かせを聞く」全体での活動と、後半に「それぞれの課題に取り組む」ペア学習の2部構成で展開を固定した。

前半の「絵本の読み聞かせを聞く」活動では、電子黒板を用いて生徒に挿絵を見せながら、教師による読み聞かせを行った。その際、ある場面で一旦区切り、その場面の簡単な質問を行った。途中で教師からの質問を入れることで、登場人物や登場人物の動きを丁寧に振り返り、人物の関係性や場面の状況を確認しやすくすることや、物語全体の把握が難しい生徒も、少しずつイメージできるようになることをねらった。1回のうち4つの質問を設け、質問への答え方は、各生徒に応じて個別に教材を準備した。

後半は、実態に応じて組み合わせた2人1組のペア学習を中心に進めた。絵を見て二語文から四語文を作ったり、選択肢の中から必要な語を選んで文を作ったりするペア、示された語を並び替えて文を作るペア、教師と一緒に身近な物の名前を聞いて、絵カードを選んで取る活動をするペアに分かれて取り組んだ。このペア学習での教材も一人ひとりの実態に応じたものを準備し、授業改善の視点から、前時の取り組み方を踏まえ改善・変更することとした。

〔表－29 授業の展開〕

時間	学習活動	活動の詳細
9:40	はじめのあいさつ	
9:42	今日の学習の流れ、目標の確認	本時の活動の流れや目標を、電子黒板で確認する。
9:45	絵本の読み聞かせ	今日の注目ポイントに気を付けながら、読み聞かせを聞く。話の途中で4つの質問があるので答える。
10:10	ペア学習	絵を見て言葉を並び替えて文を作ったり、絵とそれに合う文を結び付けたり、教師とのやり取りを楽しんだりして、それぞれに合った学習に取り組む。
10:25	ふりかえり	目標を確認しながら、本時の振り返りをする。
10:30	終わりのあいさつ	

授業改善については、計画に沿って単元を進める中で、1時間の授業ごとに生徒の活動の様子を振り返り、それに基づいて行うようにした。特に、生徒が主体的に活動するために必要な手立てについては、毎時間工夫をするようにした。

以下に、活動場面ごとに、「教師がどのような手立ての工夫を行ったか。」「生徒はどのように活動したか。」について、「生徒の行動の意味」や「どんな支援が必要なのか」の考察も踏まえてまとめた〔表－30, 31, 32〕。

〔表－30 絵本の読み聞かせの場面での授業改善〕

絵本の読み聞かせの場面での手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の登場人物中の誰の台詞なのか分かりやすいように、ペープサートを使用した。</li> <li>・丁寧に振り返りながら、少しずつイメージができるように、読み聞かせの途中に、内容についての質問を入れるようにした。</li> <li>・電子黒板に大きく絵本を映し出し、生徒によっては自分の絵本を準備し、手元に置いておくようにした。</li> <li>・読み聞かせをしている T1 や電子黒板に注目するよう、T2 の教師が個別に言葉掛けした。</li> </ul>	
生徒の様子	生徒の行動の意味や必要な支援に関する考察
<p>生徒 K は、1 回目は T2 の教師が側で見守ったが、電子黒板に注目することができなかつた。2 回目は、K と N に一人の教師が言葉掛けしたが、やはり読み聞かせに集中できなかつた。3 回目は K と N のそれぞれに一人ずつ教師が支援に入り、絵本の内容に関する語りかけを行ったところ、電子黒板を見たり、教師の方を見てうなずいたりしながら、最後まで聞くことができた。</p>	<p>聞くことに注意を向けることが難しい生徒には、T2 の教師が個別に言葉かけする必要がある。その言葉かけについても複数の生徒に向けて「お話を聞きましょう。」ではなく、生徒が自分に言葉を向けられることが分かるよう、すぐ近くで言葉かけしたり、まず名前を呼んだりするなどの工夫が大切であることが分かった。</p>

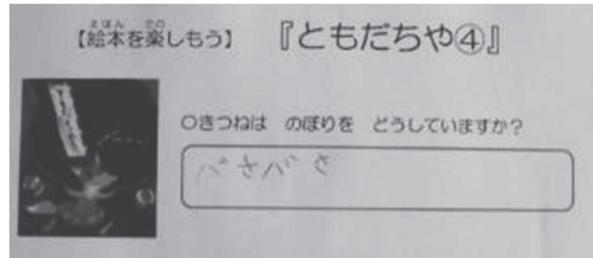
〔表－31 絵本についての質問に答える場面での授業改善〕

読み聞かせ途中の質問に答える場面での手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ質問だが、一人ひとりが主体的に答えることができるように、回答の方法やワークシートを生徒それぞれに応じたものを準備した。</li> <li>・4 回の授業では、前時の回答の様子を見ながら、同じ問題も再度質問するようにした。場面の様子をつかみ内容の大体を理解できるよう、4 問の問題を毎回考えることにした。</li> <li>・生徒に応じて挿絵のカードを見せるときに、1 枚 1 枚目の前に提示しながら、絵が表している内容を語りかけて伝えるようにした。</li> </ul>	
生徒の様子	生徒の行動の意味や必要な支援に関する考察
<p>生徒 J は、2 回目、3 回目の授業で「きつねは、のぼりをどうしていますか」の問題に対して、手振りで動作を示していたが〔図－56〕、なかなか言葉を書き出せなかつた。しばらく考えて、絵本の文中から「ともだちやふりふり」と書き出した。4 回目の授業では、教師に「旗はゆらゆら。バサ</p>	<p>生徒 J は登場人物の動作を理解しているが、その動作を表す言葉として「ふりふり」は、まだ獲得途中である。これまでの学習で学んで知っている言葉である「バサバサ」とじっくり合わせながら考えているのではないかと推測できる。言葉のイメージ広げるプロセスとして必要なことであると考えられた。</p>

バサ。」と、口頭で伝え、少し考えて、「バ さバサ」と書いた〔図-57〕。	
---	--



〔図-56 生徒Jの手振りでの動作〕



〔図-57 生徒Jの「バサバサ」の記述〕

〔表-32 ペア学習の場面での授業改善〕

ペア学習の場面での手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのペアに応じた問題を準備した。</li> <li>・自信をもって答えることができるように、問題やワークシートをスモールステップで変更した。</li> <li>・カードのマッチングでは、生徒の見え方に注目し、1枚ずつ説明しながら見せたり、カードホルダーに立てて置いたりした。また、生徒に応じて手に取りやすいようにカードに厚みをもたせた。</li> </ul>	
生徒の様子	生徒の行動の意味や必要な支援に関する考察
<p>1回目は、生徒KとNのやり取りの活動を、教師1名の指導で行ったが、KはNの行動を待てずに、次々にカードを取って渡そうとした。2回目以降は、まずそれぞれの生徒に1人ずつ教師がついて生徒の1対1でやり取りの練習をした後に、「Nさんが選んだものと同じものを、Kさんも選んでね」という言葉かけをしたところ、スムーズにできた。</p>	<p>生徒同士でのやりとりが難しい生徒であっても、スモールステップで教師が実態に合った支援を行うことで、やり取りが可能であることが分かった。2人が好きな、果物のカードを使っての活動だったことや、国語の授業以外の場面でも、一緒に教室移動するなど、交わる機会を多く設定するなどしたことも有効であったと考えられる。</p>

高等部の授業研究の成果と課題は以下のようにまとめられた〔表-33〕。

〔表-33 高等部授業研究の成果と課題〕

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それまでの50分間一斉授業のみの展開から、生徒の実態に合わせて一斉授業とペア学習を組み合わせた授業展開にした。そのことにより、最後まで活動に取り組む生徒が増えた。</li> </ul>
--

- ・個々の実態に応じたワークシートや、生徒の記憶の特性や、物の見え方に考慮した教材を準備するようになった。教師の準備を丁寧にする事で、少ない支援で回答したり、教材に注目して自分から手を伸ばしたりする姿が見られるようになった。
- ・T2の教師が誰の支援に入るか、どのような支援をするか、打ち合わせした上で授業を行った。生徒一人ひとりの目標が達成されるようになるとともに、T1への注目などもできるようになった。
- ・同じ授業展開で、生徒が見通しをもって授業に参加できるようになった。また、絵本に関心を持ち、授業中自ら音読をし始める生徒もでてきた。同じ絵本の読み聞かせを繰り返し行ったことが要因の一つであると考え。
- ・授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」のうち、特に「主体的」に注目して、毎時間の授業の手立ての工夫を行うようにしたところ、全生徒が主体的に授業に取り組み、本来もっていた力を発揮することができるようになったと考える。

#### 【課題】

- ・教師間の打合せの時間、個に応じた教材作成の時間の確保のための工夫が必要である。
- ・授業に関する情報や教材の共有についてアイデアを出し合うなどして、より効率的で効果的な解決方法を探っていく必要がある。

## (2) 2年次の取組

2年次は、各学部とも「生活単元学習」について授業研究を行うこととした。

これまで本校は「教育実践の成果は、児童生徒の学校卒業後の生活の在りように表れる」の想いの下、各教科等を合わせた指導を重視してきた。

しかし、今期研究では、各教科等の内容を整理し、育成を目指す資質・能力をベースにカリキュラム・マネジメントの推進を図っているが、各教科等を合わせた指導において、複数の教科を効果的に合わせて指導する難しさを実感しているところであった。

以上を踏まえ、児童生徒の生活から共通のテーマが生み出され、そのテーマに向かって児童生徒が主体的に取り組む姿を引き出す指導形態である各教科等を合わせた指導の在り方を改めて追究することが重要だと考えた。具体的には、知的障害のある児童生徒が、よりよく各教科等の内容を習得するとともに、「将来に生きる」＝「学校卒業後の生活の在りよう」につながる資質・能力を身に付けるような各教科等を合わせた指導について、研究授業を実施し実践内容の検討を通して、本校の児童生徒のよい学びと、各教科等を合わせた指導の基本的な考え方を整理したいと考えた。

各教科等を合わせた指導のうち、日常生活の指導については、カリキュラム・マネジメントに係る各計画の見直しの取組において、年間指導計画とは別に「日常生活の指導の計画」を作成することとし、目標や手立ての可視化に取り組んだことろであり、今後、計画や評価を積み重ねる中で見直しと改善を図りながら検討を深めていきたい。

作業学習については、昨年度より中学部と高等部の「合同作業」の取組がスタートした。幅広い年齢・実態の生徒が協働しながら作業に取り組む中で、職業教育を中心に6年間一貫した中学部・高等部の連携の流れを構築しているところである。また、中学部における作業学習の意義や高等部における作業学習の意義について、それぞれの学部の教育と照らし合わせるとともに、中学部から高等部へのつながりがより明確になるよう検討を深めている。

そこで、今年度の学部別授業研究は、各教科等を合わせた指導のうち「生活単元学習」に取り組むこととした。また、2年次の授業研究後には、1年次に作成した「児童生徒の確かな学びをつなぐポイント」を見直し、ポイントのさらなる整理や、実感しやすい図式化の工夫に取り組んだ。

なお、2年次の研究授業対象の児童生徒をaからz、 $\alpha$ 、 $\beta$ で示す。

## ア 小学部の取組

小学部では、今年度7月に3・4年学級の生活単元学習「げきをしよう」の単元について授業研究を行った。

### 年間指導計画作成における単元の位置づけ

カリキュラム・マネジメントフロー図に沿って、昨年度末に1・2年学級と3・4年学級で年間指導計画作成に取り組み、今年度になって学級で見直しを行った。年間指導計画作成にあたっては、昨年度実施した単元の中で有効だったものからさらに発展させた単元を中心に配列するようにした。当初、研究授業を対象とする単元は昨年度からのつながりを考慮し「夏まつりをしよう」を計画し、他学級の児童や教師を招いて、学級外の人との関わりや役割を果たすことを重視した内容を検討していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施の再検討を行うこととなった。

### 児童の実態

本学級の児童は、3年生が3名、4年生が3名、計6名が在籍している。4年生のうち1名は本年度転入してきた児童である。中学年の新学級になり、友達同士や、教師との関わりなど、徐々に広がりが見られるようになってきた。また、6月に生活単元学習「図書館へ行こう」を実施してからは、絵本を見たり読んだりする姿がよく見られるようになった。そこで、昨年度1・2年学級でも行った「げきを

しよう」の単元を新たに設定することとした。本単元では、国語科の内容と生活科の内容を取り扱うこととした。

本学級の国語科の実態について、「学びの履歴」をチェックして実態把握を改めて行った。6名の「学びの履歴」を見てみると、「言葉の特徴や使い方」「書くこと」等の学習については習得が進んでいるが、「聞くこと・話すこと」「読むこと」については取扱いや育成が不十分であることが分かった。前単元の「図書館へ行こう」においては、校内の図書室や公共の図書館を利用し、好きな絵本を見つけて読む学習を行い、児童がそれぞれに、挿絵を見て楽しんだり、物語の内容を理解し気持ちを込めて音読したりして楽しんだ。この単元を通して、児童一人ひとりの「読むこと」の広がりが見られた。そこで、本単元では、「読むこと」の学習を一步進めて、物語のストーリーや登場人物の気持ちや物語の内容を理解したり、物語の世界観を味わって楽しんだりする学習を行うこととした。

生活科の「役割」に関する実態については、朝の日常生活の指導の時間に、一人ひとりが毎日係の仕事に取り組むことができている。また、朝の会や帰りの会でも、役割を分担しながら自分達で進めることができるようになってきた。本単元では、さらに友達と協力し合って役割を果たそうとする姿を目指した。また、それぞれが役割を担って、劇の準備等を行うことによって、学習への期待感や達成感を高めることができると考えた。

#### **単元構想**

カリキュラム・マネジメントの取組に沿って「学習内容表」を活用し、そこから見えてきた指導内容に焦点を当てて単元計画を行った。合わせて「学級全体で指導する良さ」、「児童同士が関わりながら学び『楽しい』と思える内容」を念頭に置いて内容の検討を行った。

今回取り扱った「ブレーメンの音楽隊」は、動物が登場し、児童にとって親しみやすく、場面展開が分かりやすいため、理解しやすいと考えた。動物は原作どおりとするのではなく、児童が主体的に取り組むことができるように、鳴き声に聞き覚えのある身近な動物の中から自分達で選ぶようにした。1次では、物語の場面に沿って、登場する動物の気持ちを考える学習に取り組み、2次以降は劇の練習を録画し、振り返って気づきを発表する学習にも取り組んだ。

また、生活科の「役割」に関する力を育むことをねらい、劇に向けた活動の中で、お面や小道具作り、招待状書き、劇前後のあいさつ、道具の準備や片付け等に取り組むこととした。より主体的に取り組む、友達と協力して役割を果たせるよう、どの役割をするかについては、自分で決めるようにした。

単元の終盤には、少人数の職員を招いて発表会を設定し、賞賛されることで自信や達成感を感じ、自己肯定感を高めたいと考えた。

指導案からの抜粋〔図-58〕

小学部3・4年学級（B組） 生活単元学習 学習指導案（抜粋）

1. 単元名「げきをしよう」

2. 単元の目標

- 「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で、場面の様子や登場人物の行動等についてイメージしたことを言葉や動作で表すことができる。（国語科）
- 「ブレーメンのB組音楽隊」を発表するにあたって、友達と協力したり分担したりして役割を果たすことができる。（生活科）

3. 単元の計画（全11時間）

次	時	日時	学習内容	指導内容
1	5	7/5, 6, 7, 8, 9	○「ブレーメンのB組音楽隊」について知ろう。 ○劇の準備をしよう。 ・配役を決める。 ・お面や小道具を作る。 ・役割を決める。 ・招待状を書く。 ・台詞を読む練習をする。	国語科 読むこと 聞くこと・話すこと 生活科 日課・予定 生活科 役割 図画工作科 表現
2	4	7/12, 13, 14, 15【本時】	○通し練習をしよう。 ○リハーサルをしよう。	国語科 読むこと 聞くこと・話すこと 生活科 役割
3	1	7/16	○お客さんの前で劇をしよう。	国語科 読むこと 聞くこと・話すこと 生活科 役割
4	1	7/19	○ふりかえりをしよう。	国語科 書くこと 図画工作科 表現

4. 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援
10:55	1 はじめのあいさつをする。	・身だしなみを整え、姿勢よくあいさつをするように言葉かけをする。
10:56	2 前時の動画を見て、ふりかえりをする。	・前時のふりかえりの時間に気づいたことについて、動画を見て、気づきを発表する時間を設ける。

11:10	3	道具を持ってプレイルームに移動する。	・道具を運ぶ役割を確認する。
11:15	4	リハーサルをする。	・電子黒板で、ナレーションの言葉や児童の台詞等を場面ごとに提示する。必要に応じて、自分の出番や台詞を言う児童に言葉かけをする。
11:40	5	リハーサルを見た職員から感想を聞く。	・感想をもらう教師に注目するように言葉かけをする。
11:45	6	道具を片づけ教室に移動する。	・道具を運ぶ役割を確認する。
11:50	7	一人ずつ、ふりかえりを行う。	・ふりかえりの際は、感想を伝えやすいように、「がんばった」「たのしかった」「緊張した」という気持ちのイラストを提示する。
11:54	8	おわりのあいさつをする。	・身だしなみを整え、姿勢よくあいさつをするように言葉かけをする。

〔図-58 「げきをしよう」指導案（抜粋）〕

**抽出児童の実態および個人目標，本時の授業の様子と評価**

以上の計画に沿って授業を実施していったところ，どの児童も生き生きと活動する姿が見られた。その中で，本単元を通して「読むこと」「聞くこと・話すこと」や「友達と協力すること」に関して，特に大きく変容が見られた2名の児童を抽出してまとめることとした。

**【事例1 児童a】**

○ 実態

- ・小学部3年生の自閉スペクトラム症の男子児童
- ・初めての活動や自信がない活動は苦手だが，見通しをもつとスムーズに活動できる。
- ・字体の異なる文字の判別が難しく，平仮名の読みに苦手意識があり，読む活動の際は固まって活動が滞ることがある。
- ・身近な教師とは会話を楽しむことができるが，その他の大人には話しかけることを恥ずかしがることが多い。発語が少ない児童とどのようにかかわってよいか分からない様子が見られる。同じ学級の児童とはよくかかわっている。

- ・人前での発表は緊張して声が小さくなったり、言葉に詰まったりすることがある。

○ 本時の個人目標および評価と様子（本時9／11）

児童	個人目標	評価	授業の様子
a	①「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で、ライオンの役になりきり、悲しい場面では悲しそうな動作をしながら台詞を言ったり、泥棒を驚かす場面では驚かすような声で台詞を言ったりすることができる。 (国語科 小学部2段階)	△	悲しい場面と驚かす場面の違いは理解しているが、台詞を読んで言うことで精一杯だったようで、気持ちを込めて言うことは難しかった。驚かす「がおー」は泣き声のみだったため、驚かすように大きな声を出して言うことができた〔図-59〕。
	②「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で、友達の様子を見ながら、全員で台詞を言う際の掛け声をかける役割を果たすことができる。(生活科 小学部2段階)	△	劇の中で友達の様子を見て掛け声をかけることは難しかったが、役割の理解はできており、劇をする前に教室で練習をした時には、自分から周りの友達の様子を見渡して「じゅんびオッケー？」と掛け声をかける姿が見られた〔図-60〕。



〔図-59 「がおー」を大きな声で言う様子〕



〔図-60 周りの友達の様子を見渡す様子〕

【事例2 児童d】

○ 実態

- ・小学部4年生のダウン症候群の男子児童
- ・今年度より本校に転入してきた。大人とのやり取りが多いが、少しずつ同じ学級の友達とかかわる場面も増えてきた。前単元で同級生と身振りでのやり取りをして、笑い合う様子が見られた。
- ・本を読むことが好きで、読み聞かせをすると嬉しそうに集中して聞くことができる。
- ・「ありがとう」の「とー」や、「さようなら」の「ら」など言葉の語尾のみであいさつをすることがある。

- ・簡単な口頭の指示や質問を理解することができており，話しかけられると頷きや首を振ることで「はい」や「いいえ」の意思を伝えることが多い。
- ・物を運ぶなど教師の手伝いを意欲的に行うことができる。
- ・歌やダンスは，覚えるまで人前で行うことに抵抗があるが，流れや動きが分かると，楽しみながら取り組むことができる。

○ 本時の目標と様子

児童	個人目標	評価	授業の様子
d	①「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で，ゾウの役になりきり，他の役の友達に「いっしょにブレーメンにいこう」という台詞を言う際に，友達の目を見たり，友達のところに駆け寄りたりして，動作をすることができる。 (国語科 小学部1段階)	○	「それじゃあ，いっしょにブレーメンにいこうよ」の台詞の意味が分かっていて，自分から友達の方を向いて，動作することが出来た【図-61】。
	②「ブレーメンB組音楽隊」の劇をする中で，おわりのことばの役割を果たすことができる。(生活科 小学部2段階)	○	タブレット端末を使っておわりのことばの音源を流す役割の場面では，BGMが終わるのを待って自分から動き出すことができていた【図-62】。



【図-61 友達の方を向く様子】



【図-62 自分から操作しに行く様子】

単元の評価・次の単元や次年度への展望

授業を実施し，評価の3観点で個人目標の評価をと今後に向けての考察を行った。ここでは児童aと児童dについてまとめた【表-34】。